

未来予測アプローチを活用した イノベーション・マネジメント

●プログラム●

【開催主旨】

今、未来予測ブームと言われていています。経営・事業・製品・技術の今後の戦略を検討するにあたって未来予測を取り入れる背景としては以下の2つが挙げられると考えます。一つは、環境変化が急速に速くなるとともに、自社に入ってくる情報が過度に多くなっており、何を起点に考えればよいか分かりづらくなっていることです。もう一つは、自社のコアコンピタンスを起点とした新事業・新製品・新技術開発への取り組みにつまらなさや行き詰まり感を感じていて既存の延長ではない新たな視点への渴望があることです。

本セミナーでは、未来予測アプローチの捉え方を整理したのち、未来予測が自社のイノベーションの新たなアプローチになりうるかを考察したうえで、未来予測を取り入れた新事業・新製品・新技術テーマ創造プロジェクトを進めるにあたってのポイント、事例を交えてお話しします。

◆日時：2015年1月23日(金) 13:30~17:00

◆会場：東京・麹町 「企業研究会 セミナールーム」

◆講師：(株)日本総合研究所 総合研究部門 ディレクター 時吉 康範氏

【略歴】

早稲田大学政経学部政治学科卒。ニューヨーク大学経営大学院 経営学修士。

JSR株式会社を経て2000年日本総合研究所に入所、現在に至る。

日本総合研究所総合研究部門にて、これまで、技術価値創造戦略グループ、機械・電機・化学イノベーショングループ、事業開発コンサルティンググループ、および自ら立ち上げたインド事業創造グループを率い、大手製造業の主に新規事業部門や研究開発部門のトップに対して、新規事業テーマの提案、新規事業の事業化戦略の(再)構築、技術シーズの商品化戦略策定、研究開発テーマの再構築、技術経営人材の育成などのコンサルティングサービスを提供するとともに、インド・ASEANへの産業進出を促進する中央官庁の支援を行ってきた。

ビジネスブレークスルー 「現場発！新事業創造アプローチ」「インド事業創造」講師、英国国立ウェールズ大学経営大学院「技術経営戦略」「イノベーションマネジメント」講師。2011年4月より、主にインド・ASEANにおける日本企業の事業の成功を追及するグローバルマネジメント戦略グループの担当ディレクターを務める。

●参加要領●

一般社団法人 企業研究会 セミナー事務局宛 FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ (http://www.bri.or.jp) からもお申込みいただけます

●受講料●1名(税込み、資料代含む)

正会員	32,400円	本体価格 30,000円
一般	35,640円	本体価格 33,000円

- 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてにFAXいただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。
- 申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。
- 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより【TOP】→【公開セミナー】→【よくあるご質問】をご参照下さい。
- 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。

一般社団法人企業研究会

担当：村野 E-mail murano@bri.or.jp
〒102-0083
東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町 31MT ビル 2F
TEL 03-5215-3550 FAX 03-5215-0951

141627-1010		※ 2015.1.23 イノベーション・マネジメント	
会社名			
住所	〒		
TEL		FAX	
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			

未来予測アプローチを活用した イノベーション・マネジメント

1. 未来予測の捉え方

- (1) フォーキャスト型アプローチ
- (2) バックキャスト型アプローチ
- (3) 時間軸と産業分野による未来予測アプローチの適合度

2. イノベーション・マネジメントと未来予測アプローチ

- (1) イノベーションの階層構造
- (2) イノベティブな企業の経営システム
- (3) イノベーションを志向する組織が未来予測アプローチに取り組む意義

3. 未来予測アプローチによるテーマ出しが難しい原因

4. 未来予測を取り入れた新事業・新製品・新技術テーマ創造プロジェクトの進め方

- (1) 「自社ならではの」未来像とテーマ創造に向けたプロジェクトの全体像
- (2) 情報の取り方
- (3) 議論の進め方
- (4) ストーリーの作り方
- (5) 未来像のテーマへの落とし込み方
- (6) アウトプットイメージ

5. まとめとしてプロジェクトの成功・失敗要因